




収受年月日	議 長	事務局長	書 記
元・9・2			
第 83 号			

令和元年 8 月 26 日

埴町議会議長 大縄 武夫 様



経済常任委員会委員長 鈴木 茂



### 所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第 77 条の規定により報告する。

#### 記

1 調査事件 新規就農者支援及び古民家を利用した地域活性化に関する施策の実施状況について

2 調査の経過

本委員会は、国見町で実施している新規就農者支援のための農業ビジネス訓練所といわき市の支援で田人町内に設立された古民家を利用したコミュニティハウスの運営状況の調査を行った。

調査日 令和元年 7 月 29 日 (月) 10:50~16:10  
 出席委員 鈴木茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明、  
 下重義人、鈴木孝則  
 説明員 国見町 : 産業振興課長、係長、主任主査  
 いわき市 : 田人支所長、議会事務局主査、  
 田人地域振興協議会会長

職務出席者 議長、書記  
 場 所 現地

3 調査の結果

(1) 国見町 くにみ農業ビジネス訓練所

くにみ農業ビジネス訓練所は地方創生資金により道の駅「国見あつかしの里」隣接地に、農業の担い手育成と水稻果樹に次ぐ野菜の多品目栽培で「稼げる農業」のビジネスモデルを構築していくのを目的として整備された。

施設の運営開始は平成 30 年度で実質運営は今年で二年目である。施設は養液栽培鉄骨ハウス一棟 1000 m<sup>2</sup>(ミニトマト栽培)、野菜栽培用鉄骨ハウス 4 棟、露地栽培ほ場、その他管理棟と格納庫である。総事業



費は 95,866 千円で補助率 50% 事業債も交付税措置がある。ソフト事業費は人件費他で年間 2 千万ぐらいである。長期研修はミニトマトの養液栽培で現在 40 代の男女 2 名が研修中である。短期研修は野菜の多品目栽培の講習を年 5~7 回程度行っている。体験研修はエダマメ、トウモロコシ、サツマイモの収穫体験を行う。

なお収穫したものは、道の駅や、直売所で販売している。指導者は県からの講師や先進農家で、運営体制は所長として産業振興課長が当たり、農場の担当者は臨時職員で対応している。

今回の視察の所見として、今回の取組みは他市町村でも行われていない良い取り組みであると思う。担い手不足は我が町でも必至であり何らかの対応が必要であると思う。ただ研修で残念と思われたのは、養液栽培はミニトマトだけであり、トマトはミニトマトより中玉トマト、中玉より大玉トマトが好まれており、三種類栽培してはどうかと思われる。

## (2) いわき市田人町 たびとコミュニティハウス

いわき市田人町の田人地域振興協議会がいわき市の支援を受け、築 180 年の古民家をリノベーションし、地域住民の交流場所として「たびとコミュニティハウス」として平成 30 年にオープンした。その際、資金不足に対しては、クラウドファンディングを行い 50 万円を集めた。その後地域おこし協力隊によりカフェをオープン、一日 20 人ぐらいの利用客がいるとのことであった。

メニューはランチ、カレー、豚丼の食事の他コーヒー、スイーツを提供している。その他に、子供の預かり事業を開始し学童保育を行っている。

協議会はこの古民家の他に、公共交通がない田人町住民の足確保のために「たびとほっこり号」を走らせている。市より公用車二台を借りて、住民 32 名が運転手となり 100 名の登録者が買物や病院に利用しているそうである。

今回の視察の所見として、人口 1,400 人、高齢化率 46% の過疎化の進む町(地区)の、移住定住のための挑戦であるが、今も大震災による原発事故が大きく影を落としている。

前途は厳しいが方向性に間違いはないと思われる。

見習うべき点や類似点も多くあり、本町も今後の課題であることは言うまでもない。

## 4 委員報告書

別紙のとおり

收受年月日	議長	事務局長	書記
元・8・20			
第 号			

様式1

査研修等報告書

令和元年8月20日

議会議長  
委員会委員長

様

提出者 下重 義人

派遣目的 (調査等名称)	経済常任委員会所管事務調査		
派遣の日時	令和元年7月29日(月) 8:30~17:00	派遣先 (場所)	国見町・いわき市
内容	<p>第1. 国見町新規就農者支援に関する取組み (くにみ農業ビジネス訓練所を視察)</p> <p>第2. いわき市古民家を利用した地域活性化に関する取組み (たびとコミュニティハウス「HITO-TABI」を視察)</p>		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>【第1】 くにみ農業ビジネス訓練所整備事業の視察研修を行ったが、この事業の目的は町の基幹産業である。農業の担い手の育成と主要産物である水稻、果樹に次ぐ野菜の多品目栽培にする園芸作物の振興を図り「稼げる農業」のビジネスモデルを構築していくことを目的として整備していると説明を受けた、又農業の担い手の育成にあつては、町内外の青年層や会社を退職した者等を対象とし、知識や技術の実践的研修を行い、生産者の栽培技術の向上と農業所得の向上を目指している様である。埴町と比べると、国見町は主要産物のなかでも果樹の桃が大半を占めているので「稼げる農業」には果樹だけでも十分値するのではと思われる。研修事業の中でも、短期研修、体験研修の参加人数は多いようだが長期研修の国見町で新規就農を目指す方は少ないようだ、溶液栽培用鉄骨ハウス、野菜栽培用パイプハウスなど農業用施設は、かなり整っているので本気で農業を目指す方には適していると思われた。この施設を活かし農場の生産、販売支援及び連携した担い手育成に努めてもらいたいと思います。</p>		

【第2】

いわき市古民家を利用した地域活性化に関する取組み（たびとコミュニティハウス）を視察説明を受けました、このプロジェクトは雇用機会の減少、若年層の町外流出、空き家の増加、交流機会の減少、担い手不足といった中山間地域特有の課題が深刻になり、このような状況に歯止めをかけるために立ち上げたプロジェクトのようだ。築150年以上の古民家をリノベーションし、地域住民が自由に集い（住民同士がつながる場）となるコミュニティハウスとして再生させている。平成14年に発足した、貝泊コイコイ倶楽部は一時休校となっていた、貝泊小学校をまちの交流人口の拡大を目指し様々な活動を展開した結果、再開につながった実績がある、だがその後、残念ながら原発事故などの影響により、人口減少の意図をたどったと思われる。一時期13世帯33名の移住者による、人口増加の実績があったので、再度コミュニティハウスプロジェクトに期待したいと思います。

收受年月日	議長	事務局長	書記
元・A・20	委員	藤田	根本
第 号			

## 研修等報告書

令和元年 8 月 1 9 日

議会議長  
委員会委員長

様

提出者 鈴木 孝則

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会視察研修		
派遣の 日時	令和元年 7 月 2 9 日	派遣先 (場所)	国見町・いわき市田人町
内容	<p>1、 新規就農者支援に対する取り組み (くにみ農業ビジネス訓練所)</p> <p>2、 古民家を利用した地域活性化に関する取り組み (たびとコミュニティハウス・HITOTABI)</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1 募集方法は町HP・町広報・農業人フェアなどへの参加である。研修内容については実習と座学による講義の長期研修と短期研修、実習のみの体験研修である。長期研修生は本年からで、町内1名、町外1名(男女各1名)であり新規就農、定住移住はこれからであり訓練所開設の結果が待たれる。</p> <p>2 田人町は面積が広いが世帯数は572、小学校は33名、中学校は12名である。</p> <p>コミュニティハウスは地域に住む人同士の対話の場・地域に人が来るきっかけ作りの場・地域が人を助け育てる場がコンセプト。本年3月にハウス内にカフェスペースをオープンしたが食事の提供や民泊についても検討しているという。</p> <p>田人地域振興協議会の蛭田会長さんはバイタリティがあり牽引車となり地域を引っ張っている。今後の活動に大いに期待したいと思います。</p>		

收受年月日	議長	事務局長	書記
元・8・6	議員派遣 大縄	派遣 藤田	調査研修 榎本
第 号			

調査研修等報告書

令和元年 8 月 3 日

大縄 武夫 議会議長  
鈴木 茂 委員会委員長 様

提出者 吉田 広明

派遣目的 (調査等 名称)	新規就農及び移住施策の現地視察		
派遣の 日時	令和元年 7 月 2 9 日	派遣先 (場所)	国見町・いわき市
内容	1、国見町「くにみ農業ビジネス訓練所」視察 2、いわき市田人地区「たびとコミュニティハウス・HITO-TABI」視察		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	1、国見町「くにみ農業ビジネス訓練所」新規就農研修の状況を視察する。 「地方創生拠点整備交付金事業」、「地方創生推進交付金事業」など総事業費 1 1 6, 3 8 3 千円 (各 5 0 % 補助率) で、農業の担い手の育成と農産物の振興を図り、「稼げる農業」のビジネスモデルを構築することを目的とし、研修管理施設、養液栽培用鉄骨ハウス、野菜栽培用パイプハウス、露地栽培ほ場を有し、平成 3 0 年度から運営を開始する。平成 3 1 年度の実績は、長期研修 2 名入構 (年 / 1、2 0 0 時間)、短期研修 6 6 名参加、体験研修延べ 3 1 家族 9 9 名であった。関係機関との販売連帯で (株) 国見まちづくり会社 (くにみ道の駅) や JA ふくしま未来などが就農後の販売先となる。施設規模に対して活用頻度が少なく感じる。県内外の若手就農者の話を聞くと、「消費者との直接コミュニケーションが楽しい」、「子育て環境に適しているから」、「オーガニックの農産物を作りたいから」など、大規模な圃場運営とは程遠く、 <u>埴町に導入する場合、視点の整理が必要と思われる。</u> 2、いわき市田人地区「たびとコミュニティハウス・HITO-TABI」で移住施策を視察する。震災前は、5 0 世帯 (1 0 0 人) が移住していたが、事故後、4 割が地区外に流出する。HITO-TABI は地域の有志、県外の若者 (地域おこし協力隊) などが協力し、クラウドファンディング (目標 5 0 万円) で立ち上げる。「コミュニティ・カフェ」、「子ども預り事業」を行う。今後はインバウンドを進め古民家民宿も展開予定。更に、 <u>公共交通「住民ボランティア輸送」を始める。運行は日曜日～金曜日、乗車料金は無料で 1 0 0 名が登録。4 割の高齢者が病院や買い物に利用している。運転者の報酬は月額 1 万円。地区振興だより「本当に住み良い田人を目指して」と書いてある。やる気・元気の田人地区を参考に地区単位で学ぶところがあると思われる。</u>		

収受年月日	議 長 事務局長 書記
元 9. 2	議員 派遣 調査
第 号	委員 派 藤田 根本
議会議長	

研修等報告書




R 1 年 9 月 3 日

委員会委員長

様

提出者 副 員 壽 一

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会		
派遣の 日時	R 1 年 7 月 29 日	派遣先 (場所)	国見町 いわき平田人
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>くくにみ農業ビジネス訓練所</li> <li>町人 コミュニティハウス</li> </ul>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<ul style="list-style-type: none"> <li>くくにみ農業ビジネス訓練所 国見町主体で農業の担い手育成と園芸作物の 振興を図り「稼げる農業」のビジネスモデルを 構築目的 長期研修、短期研修、体験研修がある 道の駅、国見「あつかしの郷」の近隣地 存在感はあざと思われ。</li> <li>(町人) 日常の買物や通院等、高齢者の 移動支援サービスが今年3月より行われて いた事に驚いた。</li> </ul>		

收受年月日	議長	事務局長	書記
元・8・14			
第 号	経済常任委員会視察研修報告書		

提出者 鈴木茂

日時 令和元年7月29日

場所 福島県国見町 いわき市田人地区


国見町 くにみ農業ビジネス訓練所

くにみ農業ビジネス訓練所は地方創生資金により道の駅「国見あつかしの里」隣接地に、農業の担い手育成と水稻果樹に次ぐ野菜の多品目栽培で「稼げる農業」のビジネスモデルを構築していくのを目的として整備された。施設の運営開始は平成30年度で実質運営は今年で二年目である。施設は養液栽培鉄骨ハウス一棟1000平米(ミニトマト栽培)野菜栽培用鉄骨ハウス4棟露地栽培ほ場、その他管理棟と格納庫である。総事業費は95,866千円で補助率50%事業債も交付税措置がある。ソフト事業費は人件費他で年間2千万ぐらいである。長期研修はミニトマトの養液栽培で現在40代の男女2名が研修中である。短期研修は野菜の多品目栽培の講習を年5~7回程度行っている。体験研修はエダマメ、トウモロコシ、サツマイモの収穫体験を行う。なお収穫したものは、道の駅や、直売所で販売している。指導者は県からの講師や先進農家で運営体制は所長は産業振興課長が当たり、農場の担当者は臨時職員で対応している。所見 他市町村でも行われていない良い取り組みであると思う、担い手不足は我が町でも必至であり何らかの対応が必要であると思う。ただ研修で残念と思われたのは養液栽培はミニトマトだけであり、トマトはミニトマトより中玉トマト、中玉より大玉トマトが好まれており三種類栽培してはどうかと思われる。いわき市田人町

いわき市田人町の田人地域振興協議会はいわき市の支援を受け築180年の古民家をリノベーションし地域住民の交流場所として「たびとコミュニティーハウス」として平成30年にオープンしました。又資金不足に対してはクラウドファンディングを行い50万を集めました。その後地域おこし協力隊によりカフェをオープン、一日20人ぐらいの利用客がいるとのこと。メニューはランチ、カレー、豚丼の食事コーヒー、スイーツを提供しています。その他にこどものあづかり事業を開始し学童保育を行っています。協議会はこの古民家の他に田人町住民の足確保の為に「たびとほっこり号」を走らせています。市より公用車二台を借りて、住民32名が運転手となり100名の登録者が買物や病院に利用しているそうです。

所見 人口1400人、高齢化率46%過疎化の進む町の挑戦であるが大震災による原発事故が大きく影を落としている。前途は厳しいが方向性は正しいのではないか、見習うべき点や類似点も多くあり本町も今後の課題であることは言うまでもない。



收受年月日	議長	事務局長	書記	議員派遣・委員派遣
元・9・4				調査研修等報告書
第 号				

令和元年9月4日

議会議長

経済常任委員会

鈴木 茂委員長 様

提出者 七宮 広樹

派遣目的 (調査等名称)	視 察 研 修		
派遣の日時	令和元年7月29日(月)	派遣先 (場所)	くにみ農業ビジネス訓練所 たびとコミュニティハウス
内 容	1) 国見町： 新規就農者支援に関する取り組み 2) いわき市： 古民家を利用した地域活性化に関する取り組み		
派遣結果 (意見及び感想)	くにみ農業ビジネス訓練所を視察 現状と課題、今進めている事項等の全般について説明を受ける。 国見町が事業を立ち上げた経緯と、道の駅の活用・人材育成の取り組みについて把握することができ、またプログラムも良く研究されていた。 当埴町でも新規就農者の担い手を迎える手段として、参考になる研修であった。  たびとコミュニティハウス「HITO-TABI」を視察 現状と課題、取り組み全般について説明を受ける。 古民家を活用し地域協力隊員が地域住民と一丸となり、老若男女が集える安らぎの場として運営されていた。 当埴町でも参考になる実例であり、参考になる研修であった。  他町村の取り組みは、刺激になり「ひらめき」を感じた。今後、埴町の活性化につなげて行ければと思う有意義な視察研修であった。		

